



四旬節第 1 主日 (マタイ 4:1-11)

わたしたちは「ただ一つの道」を歩む

四旬節に入りました。最後の晚餐、ご受難、ご復活に向かって、節制と償い、愛のわざにいそしみながら日々を過ごしてまいりましょう。四旬節第 1 主日にあたり、イエスは悪魔の誘惑を退け、「ただ一つの道」を示し、御みずから先頭に立ってその道を歩みます。そして今日、わたしたちは一人のお子さんの初聖体を見届けます。「イエスさまに養われて生きていきます。」今この子も初聖体を通して「ただ一つの道」を選ぼうとしています。

ところで灰の水曜日、皆さんきっちり大齋小齋の断食の務めを果たしたでしょうか。わたしは 50 歳なので大齋の務めを果たしましたが、ある人を唆して釣りに連れて行ってもらいました。結論から言うと、灰の水曜日には釣りに行くべきではない、ということです。

釣りに行こうよとそそのかした人は、ちょいちょい釣りに出せば「鯛が釣れましたよ。神父様焦るでしょ」と言って来る人です。まあそれだけ言う人ですから、何かしら釣れる場所に連れて行ってくれるだろうと思って頼み込んだのです。

まあ見事に、釣れませんでした。「坊主」でした。一匹だけアラカブを釣れましたが、それはわたしではなく、相方の「坊主が上手に」釣った虎の子の一匹でした。2 時間以上いましたが、音も沙汰ありませんでした。実績のある人をもってしても、結果を出せなかったのです。

理由はいろいろあるかもしれませんが。水温が低い、魚の活性が低い、今は時期的にいちばん悪い、などいろいろ説明はあるでしょう。しかしわたしは、そういうことではないと思っています。理由はたった一つ、「灰の水曜日だったから」これ以外考えられません。

確かに、魚の活性が低かったかもしれない。けれどもこの日まで、食べ物にありつけずに困っていた魚が何匹かはいたはずです。時期的にいちばん悪いと言っても、もうそろそろ食べないと自分が死んでしまう。そういう魚もいたに違いありません。それでも、そういう魚でさえ、わたしたちの仕掛けに食いつかなかった。これはつまり、魚も大齋小齋の務めでやむなく食いつけなかったのではないのでしょうか。

思わず仕掛けにとびかかろうとして「あ、今日は灰の水曜日だった！」そう考えて思いとどまった。もっと切羽詰まっていて襲いかかろうとした魚さえ、周りの魚から「おい、今日は大齋小齋ぞ。思いとどまれ！」そう言われて泣く泣く思いとどまった。そう考えると、すべてに説明がつきます。今後二度と、灰の水曜日に釣りにには行きません。

福音朗読に戻りましょう。イエスは荒れ野で四十日間の断食の後、悪魔の誘惑と向き合い、悪魔を退けました。この悪魔の誘惑は、さまざまに説明が可能です。人間が限界に達したとき逆らうことのできない誘惑、食欲と、名誉欲と、権力欲なのだと説明することもできるでしょう。

わたしは、本来イエスにとって何が誘惑なのかを考えることが必要

だと思えます。イエスにとってたった一つの誘惑、それは「父なる神との絆を横に置くこと」これに尽きると思えます。イエスが四十日間の断食で歩んだのは父なる神との一致の道です。これをいよいよになって断ち切らせようとしたのが悪魔のさまざまな誘惑だったのです。

イエスはどのような誘惑にも惑わされませんでした。父なる神との一致の道、それは御父と聖霊が両端を握っている綱渡りの綱のようです。この綱を危うくするいかなる誘惑も、イエスはきっぱりと退けたのでした。それはご自分のためと言うよりも、あとを歩むわたしたちのためでした。イエスが先頭に立って歩む「ただ一つの道」を、わたしたちも歩むのです。

わたしたちキリスト者はどんな時も、「ただ一つの道」を歩む者です。「うわべだけ誘惑を受け入れたふりをして歩む」そのような道はわたしたちに与えられてはいません。たとえ日曜日にミサにあずかることができなかつたとしても、「ただ一つの道」を歩もうと悩んだ挙句に、悩んで出した結論が、「今日はどうしてもミサに参加できない。」もしそうであるなら、わたしはその人は「ただ一つの道」を歩もうとした結果なのだと思います。

映画「沈黙」を、ご覧になった方もいるでしょう。転んでしまった人、転ばなかった人、いのちをささげた人、踏み絵を踏んで生きながらえた人。いろいろいましたが、きっとどの人も、「ただ一つの道」を歩もうと真剣に考えながら、答えを出し続けたのだと思います。わたしも映画を観ましたが、最後は「わたしはイエスに従うというただ一つの道を歩みます。」この答えに狂いがなければ、結果はいろいろありうると思いました。

さて、説教台を降りて、初聖体を今まさに受けようとしているお子さんのもとに行きましょう。先週予告しておいた二つの質問で、「イエスさまに養われて生きていきます」という「ただ一つの道」を確認してから、その後の初聖体式の流れに移りたいと思います。

ふるさと君。「ご聖体のうちにおられる方はどなたですか？」そうですね。「ご聖体のうちにおられる方はイエスさまです。」ではもう一つ。ふるさと君。「父である神さまとお話しするために、イエスさまが与えてくださったものは何ですか。」

その通りです。「父である神さまとお話しするために、イエスさまが与えてくださったものは『主の祈り』です。」あとで、お父さんお母さん、お兄さんたちと教会のみんなと一緒に、唱えることにしましょう。